戦いに敗けても挫けず
何度も果敢に挑戦し続けるときも、
熱く、まばゆく燃え続ける。
熾烈な戦いのなかで、
すべての敵を焼き尽くしてしまうまで。

- 日本リーグ唯一の公式試合球
- 全日本実業団連盟主催大会唯一の公式試合球

32H312Y ヌエバ ¥6,825(本体価格¥6,500)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・3号球
カラー（黄×黒）

32H212Y ヌエバ ¥6,615(本体価格¥6,300)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・2号球
カラー（黄×黒）
(標記の価格はメーカー希望小売価格)

新たな「競技の健全化」を目指して

(財) 日本ハンドボール協会常務理事　江成 元伸

8月に広島市で開催された第11回ヒロシマ国際ハンドボール大会・第10回アジア男子ジュニア選手権兼2007年世界男子ジュニア選手権アジア予選は、大会直前にオマーンの棄権がありましたが、11チームの参加を得て、大成功で終了することができました。日本代表チームは善戦及ばず、大変残念ながら5位で終わり、念願の世界選手権出場は夢と終わりました。

各試合を見ましたが、極東は言うに及ばず中東も含め、アジア全体のジュニア層の力量が非常に高いということが印象に残りました。決勝戦のクウェート対韓国戦は一進一退の攻防の中で、クウェートチームは日本を苦しめた韓国の固い3：2：1ディフェンスを1：1の攻防で切り崩し、ミドルシュート、サイドシュートを決めていき、見事4連覇を成し遂げました。2位となった韓国チームも華麗なステップ、強いディフェンス力は相変わらずの脅威でした。3位のサウジアラビアは、予選で日本を苦しめた身長の高い中国チームのシュートをことごとく阻止し、固いディフェンス力を誇示しました。中国は韓国人コーチの指導の元、高い身長を利して激しい身体接触をものともせず試合を展開していました。

アジアの高い競技力は、日本のジュニア層の目標設定を大幅に変える必要があることを痛感させましたが、もう一つの関心事はコート上での選手、役員のマナーの良さでした。大会当初の印象として、外国チームの選手は警告、退場の判定に対してまったく不服の態度、表情を見せずに素直にベンチにもどっていき、ある意味では日頃国内で試合を見ている印象と異なり、なにか違ったハンドボールを見ているような感じでした。この印象を協会の役員や審判関係者と話していたところ、まさにコート上で外国チームの選手が判定に対して小さく手を広げるというアピールをしました。審判員は即座に退場の処分を下し、選手はそれこそ一目散にベンチに戻っていく姿を目にしました。選手がクレームを付けない理由が判明しました。審判員の判定には素直に服従する、従わなければ試合に出場できない、ということです。その後もある試合で、ベンチ役員のヘッドコーチに警告が与えられ、そのヘッドコーチはしばらくは立ち上がらずに他のコーチに指揮を任すという光景も見られました。今でこそチーム役員には警告－失格という処分から、2分間退場－選手の指名退場という処置が執られるようになり、多少のアピールは続けられますが、プロのヘッドコーチはリスクを負わないのだと感心したものです。この大会のスポーツマンシップに関する行動様式は、80年代後半から90年代後半にハンドボール界で叫ばれていた「クリーンハンドボール」の試合展開を彷彿させるものでした。97年の熊本で開催された世界ハンド以降、日本ではスクールハンドボールからの脱却というスローガンの元、ハードプレーとラフプレーの区分が曖昧になった感がありました。久々にすがすがしいプレーを見たなという印象でした。もちろん、このような試合運営は高い、適切な審判員の技量がなくてはならないことは言うまでもありません。

体と体をぶつけあう激しいプレーで観客を魅了し、1点でも多くの得点をあげ、1点でも少なく防御するスリリングな試合は、必ずや多くの新しいファンを獲得できるものと信じています。激しいプレーの結果としての反則－判定に対しては素直に従い、スムーズでスマートなゲーム運営をし、試合終了とともにお互いのチームの選手同士、チーム役員や審判員と互いの健闘をたたえ合うような試合を望み、その結果として満員のアリーナの観客の皆様方とハンドボールの醍醐味と感動を共通に分かち合いたいものです。

高松宮記念杯

第57回全国高等学校選手権大会

平成18年度全国高等学校総合体育大会

男子：興南高校は２年連続３度目の優勝
女子：洛北高校は２年連続５度目の優勝

写真提供：スポーツイベント社

《最終順位》

【男子】		【女子】	
優　勝	興南高校（沖縄県）	優　勝	洛北高校（京都府）
準優勝	藤代紫水高校（茨城県）	準優勝	高岡向陵高校（富山県）
第３位	浦和学院高校（埼玉県）	第３位	四天王寺高校（大阪府）
第３位	大分国際情報高校（大分県）	第３位	桜花学園高校（愛知県）

21世紀型大会
ー大阪インターハイの成功！

大阪高等学校体育連盟ハンドボール専門部委員長　尾崎 浩祥（大阪府立茨木東高等学校）

「06総体 THE 近畿」の愛称で、「君がひかり近畿の空は青くそまる」を大会スローガンに全国高等学校総合体育大会・高松宮記念杯第57回全日本高等学校ハンドボール選手権大会が大阪府・大阪市と堺市で開催できましたことを大変光栄に思っております。聞くところによりますと、第7回大会が大阪で開催されて以来、実に50年振りにインターハイが帰ってきたことになります。

今大会は開催市町村に実行委員会を置くのではなく、大阪府準備委員会を設け、府内市町・競技団体・府民との協働のもと「連携・府民参加・簡素効率」を合言葉に、高校スポーツ振興の原点に立った21世紀型大会方式を目指すことをねらいとしました。大会運営を支援するボランティアについて、全国から大会に参加する高校生が、持てる力を十分に発揮できるよう、先催県が推進した「高校生一人一役活動」の精神を尊重しつつ、大阪高体連加盟校の生徒を中心に募りました。３年前から準備委員会が発足しましたが、競技団体としては少人数での取り組みでしたので、余裕のない状態での準備となり、直前まで大会が無事に運営できるのだろうかと不安でした。しかし、本番になりますと、高体連をはじめとする大阪役員の皆様には、休憩も満足にとれない中、積極的に役割を果たしていただきました。また、保護者会やＯＢ・ＯＧの方々からも多大な協賛をいただきました。大阪には心底ハンドボールを愛する方々がたくさんおられるのだと感動するとともに頭が下がる思いがしました。それと、今年の４月から政令指定都市となった堺市からは開催地としての多大な支援をいただきました。大会を支えていただいた関係者の皆様、本当にありがとうございました。

８月２日（水）より堺市家原大池体育館、大阪市住吉スポーツセンターをはじめ５会場６コートで競技が開始されました。今大会は競技会場すべてに空調設備が整っており、参加した選手のパフォーマンスが十二分に発揮できたこの上ない環境であったと自負しております。試合も息をつかせぬほど白熱した好プレーが展開され、ハンドボールの醍醐味が味わえました。男子は優勝：興南高等学校（沖縄）、準優勝：県立藤代紫水高等学校（茨城）、第３位：大分国際情報高等学校（大分）、浦和学院高等学校（埼玉）。女子は優勝：府立洛北高等学校（京都）、準優勝：高岡向陵高等学校（富山）、第３位：桜花学園高等学校（愛知）、四天王寺高等学校（大阪）という結果で幕を下ろしました。男女とも２連覇達成という偉業を成し遂げられた両校に敬意を表します。また、地元大阪は四天王寺高等学校が堂々の３位入賞を果たしました。大勢の観客が入り、大いに盛り上がった大会だったと喜んでいます。

大会を終了するにあたり、全国より大会役員として、ご協力いただきました（財）日本ハンドボール協会、（財）全国高等学校体育連盟ハンドボール専門部、各地よりお集まりいただきました審判団の皆様に心よりお礼申し上げます。

男子優勝チームの声

感　謝

興南高等学校ハンドボール部監督
黒島 宣昭

高松宮記念杯、第57回全日本高等学校ハンドボール選手権大会（大阪府堺市）におきまして、２年連続３回目の優勝を達成することが出来ました。どうしても昨年のチームと比べられた今年のチーム。正直な気持ち「勝てる」とは思っていませんでした。昨年の「最強チーム」と言われた大型チームから、小柄で「パワー・スタミナ」の面で劣っていたからです。しかしながら、スピードを活かした個人技・速攻の展開力は素晴らしいものがありました。その面を強化していけば、春のリベンジができるかなと思って強化してきました。

初戦は、２回戦から出場でしたが緊張からか動きが悪く、試合内容には不満が残るゲームでした。しかし、３回戦から準決勝までは、本来のチームカラーであります、しっかり守ってスピードを活かした個人技とバランスの取れた速攻の展開力で得点を重ねることができ、興南のペースで試合展開ができ、決勝まで駒を進めることが出来ました。決勝戦の相手は、３月の全国選抜大会で、準決勝で敗れた茨城県の藤代紫水高校です。「高さ・パワー・スピード」など、高校生離れしたバランスのとれた素晴らしいチームであり、春の優勝校との対戦でありました。

前半のスタートは、藤代紫水高校のペースで、徐々に興南の３：２：１ディフェンスが機能し、相手のミスを得点に結びつけて、５点差をつけて折り返しました。「このリードを保ちながら進んで欲しい」と願っての後半でしたが、相手の逆襲が始まりました。反則で３人が退場、その間に高さのあるロングシュートや速攻などで得点を許し、残り10分で同点に追いつかれた時は、逆転されるのかと、嫌なムードだったのですが、ここ一番で、選手達は決して諦めず、キーパーの玉城君が好セーブでピンチを救い、勝負所で、選手一人一人が、自分の役割をしっかりこなしてくれて、３年間の総決算であります最高の舞台で、春の屈辱をリベンジ出来たことは、最高の喜びでありましたと同時に、この優勝は、チームワークの勝利だったと思います。

最後になりますが、小学校・中学校の指導者の方々が、手塩にかけて育ててくれた素晴らしい選手にめぐり逢えたことにとても感謝しています。学校関係者はもちろん、県ハンドボール協会、本校の父母会やＯＢ会の力強い支援に対してもとても感謝しています。この「感謝の気持ち」を忘れずに、自惚れず、謙虚な気持ちを忘れずに、これからも日々努力していきたいと思っています。

今後とも宜しくお願いいたします。応援ありがとうございました。

女子優勝チームの声

2連覇を達成して

京都府立洛北高等学校ハンドボール部監督
楠本 繁生

このたび、大阪府で開催されました全国高等学校総合体育大会で2年連続5回目の優勝を達成することができました。このような結果を残すことができましたのも、多くの方々のご協力とご支援、ご声援のたまものと、厚くお礼申し上げます。また、陽明高校の新里先生の訃報に接し謹んで哀悼の意を表するとともに、心よりお悔やみ申し上げます。

私は昨年優勝後、2年連続優勝という目標をあえて公言してきました。それはある意味、生徒にも自分自身にもプレッシャーになることかもしれません。しかし、この1年はユース代表として山上麻美、後藤千渡世、采野絢香の3名とスタッフとして私がチームを離れる機会が増え、チーム練習が十分にできないことへの不安を払拭するために、目標を明確にすることが大切であると思ったからです。また、そんなプレッシャーに負ける生徒ではないという自負もありました。ところが、今年のチームは新人戦の頃から故障者が多く、常にリハビリに取り組む選手がコートサイドにいる状況でした。それに加え監督・代表選手が遠征に出るという、つめた練習ができない状況が半年近く続きました。そういったなかでも優勝できたのは、春の負けを糧にできた生徒の精神力、留守中もしっかりとトレーニングを積み重ねた選手たちの力だと思います。

私はハンドボールを通じて勝ち続けることの難しさは選手時代から痛感しています。インカレ連覇を目指した4年生の時、決勝で敗れたときも、自分たちの心の中には『おごり虫』『慢心病』が存在していたのかもしれません。コートに立ちハンドボールに対峙したとき、いかに素直に努力し、頑張り、他者の気持ちを解る心を持った選手が多いとき勝てるチームの素地ができると思っています。今年のチームは少しその心が芽生えたチームです。3回戦の華陵戦や準決勝の四天王寺戦、そして決勝戦と苦しい場面でチームが一丸となれたのは、その心のおかげであると思います。

今回のインターハイは私のふるさとでもあり、大学時代の仲間や多くの先輩諸氏、また懐かしい方々が会場まで足を運んで応援してくださり、たいへん励みになりました。

最後になりましたが、素晴らしい大会運営で支えていただいた多くの役員、関係者、審判員の皆様、本当にありがとうございました。

平成18年度全国高等学校総合体育大会
高松宮記念杯　第57回全国高等学校ハンドボール選手権大会

男子の部

平成18年度全国高等学校総合体育大会

高松宮記念杯　第57回全国高等学校ハンドボール選手権大会

女子の部

高松宮記念杯
第47回
全日本実業団
ハンドボール
選手権大会

最終結果

[男子]	[女子]
優勝 大同特殊鋼	**優勝 オムロン**
準優勝 大崎電気／3位 湧永製薬	準優勝 ソニーセミコンダクタ九州
4位 トヨタ紡織九州／5位 ホンダ	3位 北國銀行
6位 トヨタ車体／7位 北陸電力	4位 広島メイプルレッズ
8位 ホンダ熊本／9位 豊田合成	5位 香川銀行ＴＨ
10位 八光自動車工業	

高松宮記念杯 第47回全日本実業団ハンドボール選手権大会を振り返り

全日本実業団ハンドボール連盟理事長　**原田　孝幸**

はじめに

今大会を平成18年7月26日～7月30日に佐賀市及び神埼市にて開催することにあたり、佐賀県ハンドボール協会並びに、行政・教育・マスコミ等の皆様や特別協賛を戴いた日本ペイント様はじめ多くの協賛企業様に支えられ、盛大に開催され感動の内に閉幕できた事を、感謝しております。

さて、高松宮記念杯 全日本実業団ハンドボール選手権大会も47回を向かえ、今までの由緒ある功績を受け継ぎながら、5年前より地方での開催をしてまいりました。

現在の日本スポーツ界は、大変大きな転換期になっているものと考えます。我々企業で維持している、企業スポーツの神話もすでに崩壊して幾年にもなり又、少子化による生徒のスポーツ離れが深刻化して、日本全体のスポーツへの感心が勝ち組と、負け組に大きく分けられてしまいそうな危機感さえ感じられます。

ハンドボール界も多分に洩れず、勝ち組に残れる保障はなく、より一層の施策を投入し打開する事が最重要課題となって来ております。それには、世界に通じる強い全日本代表チームの育成、それを支える若年層の数及び質の向上や全体を支えるサポーターの拡大にあると考えます。

近年ハンドボールの試合は、都市中心でのTOPの大会開催や、日本リーグでのホーム＆アウェー方式による第3地区での開催の減少という状況において、日本国内の最高水準である実業団のプレーを中々観戦できないでいるのが指摘されてまいりました。そこで微力ではありますが、全日本実業団連盟では、高松宮記念杯全日本実業団選手権大会を一つのハンドボール界の縮図と考え、『観て喜び、応援して喜び、プレーして喜び』の3つの喜びを常に頭に描き夢や感動を与えられるように大会開催をしてきました。

開催地の決定は、各県ハンドボール協会様の誘致希望を優先させ、日本全国平等に開催権をもっていただき、全て開催費用は全日本実業団連盟が負担し、県協会の皆様には観客動員と試合進行に集中していただき、微弱ではありますが、入場料収益の70％を県協会様に還元するようにしてきました。

一人でも多くのファンに巡り合え、3つの喜びの『観て』と『応援して』の2つを県協会様と実連で共創し、そのファンの中の一人でも多くがプレーに参加し、頂点である日本代表の道を目指す事が3番目の『プレーして』の喜びに繋がるものと確信しています。

郷土の皆様との、共創をプライオリティーの一番に上げ、一緒に大会の成功を成し遂げることが、これからの、ハンドボールが勝ち組に残っていける重要な魂であると強く信じております。

総　括

今大会は、本来の日程どおり、7月に開催をすることができ北京オリンピック出場を目指している男女の全日本候補選手がたくさん参加しており、国内トップのスピードとパワーに溢れた、白熱した試合をたくさん観て頂けた事と思います。

今年度の成績は、男子は強豪大同特殊鋼が2年連続（14回目)、女子では6連覇を目指した広島メイプルレッズを破ったオムロンが6年ぶり（6回目）優勝を成し遂げました。大変おめでとうございます。

試合の内容ですが、男女とも全日本候補選手の出場で非常に高いレベルの試合が多く、白熱した内容で大会は大いに盛り上がりをみせました。

特に大同特殊鋼は、外国人選手を中心とした攻撃力がアップし、どこからでも得点を狙えるチームでありました。MVPには、攻守で活躍の光った白選手が受賞し、チーム状況をそのまま映し出した結果となりました。

一方、女子は出場チームの減少により5チームによるリーグ戦方式で試合を行いましたが、昨年の日本リーグで久々に優勝を果たしたオムロンが他のチームを圧倒し、6連覇を狙っていた広島メイプルレッズを破り6年ぶり6回目の優勝を手にいたしました。

MVPには、優勝に貢献した洪選手が安定したプレーで受賞致しました。

第19回
全国小学生ハンドボール大会

男子・玉名町小学校(熊本)
女子・上庄クラブ(富山)
が優勝を飾る

最終成績
[男子]
優　勝　玉名町小学校（熊本）
準優勝　下郡スポーツ少年団（大分）
第３位　木田ブルーロケッツ（福井）
第３位　当山小学校（沖縄）
[女子]
優　勝　上庄クラブ（富山）
準優勝　玉名町小学校（熊本）
第３位　薪クラブ（京都）
第３位　LITTLE GUTS（山口）

今大会を振り返って

大会競技委員長　**大羽　隆夫**

今年で19回目を迎えた全国小学生ハンドボール大会。回を重ねるごとに参加チームも増え、今年は男子29チーム、女子25チームの計54チームの参加となり、過去最高となりました。

本大会は京都国体を契機として、ハンドボールの裾野を広げ、その発展と振興を目的として開催されました。そして、数えること19回。今大会の印象としては、どのチームも技術レベルが高くなってきていること。また、スポーツマンとしての自覚ある行動をとってくれるプレイヤーが多かったことが挙げられます。小学生とは思えないステツプやボディーコントロール、多彩なシュート、巧みなディフェンス。見るべきところの多い試合が展開されました。世界の流れとなっているスピーディーなハンドボール。そのクィックスタートを上手く戦術に取り入れているチームも多く見られました。

試合である以上、勝敗にこだわるのは当たり前です。しかし、選手たちは最後まであきらめることなく、普段の練習の成果を発揮しようとすがすがしいプレーを展開し、スポーツのすばらしさ、ハンドボールの良さを十分に表現してくれました。競技スタッフの多くが選手たちのその姿に胸を熱くしたものです。また、礼儀正しく、大きな声で元気にあいさつをしてくれる選手たちも少なくありませんでした。まさに、本大会の趣旨をご理解いただいている全国の指導者の方々の並々ならぬご指導の結果であると、心より敬意を表したいと思います。

大会を目前にしたある日、日本のハンドボール界をリードする、全日本プレイヤーと話をする機会を得ました。そのときその選手は「この体育館、覚えてますよ。負けてしまいましたけど。懐かしかったです。小学生ハンドボーラーにとって京田辺市は、高校野球における甲子園のような存在かもしれませんね。」と語ってくれました。この大会から日本を代表するプレイヤーが輩出していることを実感し、この大会の意義が大きいことを改めて思い知った言葉でした。来年は20回の記念大会となります。多くの方々のご協力とご支援をいただき、よりすばらしい大会となるよう努力して参ります。

2点共　写真提供：スポーツイベント社

男子優勝▶ 玉名町小学校ハンドボール部

心のつながりでつかんだ全国制覇

玉名町小学校ハンドボール部監督　土田 幸生

写真提供：スポーツイベント社

2年前の全国大会予選で中央小に敗れ、玉名町６連覇の夢は散りました。その時の４年生が今年の６年生でした。敗れた次の日、「君たちが全国大会に行って、全国制覇をして日本一になりなさい」という井上コーチの言葉からこの大会は始まりました。それから２年間、徹底した基礎の反復と中学生との練習試合を通して、子どもたちは逞しく成長してくれました。私も玉名町小９年目になり集大成のつもりで子どもたちと練習で泣き、笑い、頑張りました。「京都では最高の４日間にしよう」という合い言葉のもと、厳しい練習を積み京都入りしました。予選リーグを通過し、準々決勝の対東海スクール戦、準決勝の対木田ブルーロケッツ戦はすばらしいチーム、指導者との戦いに、とても興奮しました。決勝の下部少年団戦は５年生の時からの目標チームであり、ライバルチームでした。決勝で 勝利することができたことと、17 人全員がコートに立つことができたこ

女子優勝▶ 上庄ハンドボールクラブ

仲間を信じて、みんなで勝ち取った初優勝

上庄ハンドボールクラブ監督　竹内 貞明

写真提供：スポーツイベント社

子供達が金メダルと同時に得たものに、精神面での大きな成長がありました。昨年、延長戦で敗れた悔しさを決して忘れることなく、精一杯プレーして勝ち取った最高の笑顔と涙は、一緒に戦ってきた保護者や指導者にとっても、最高のプレゼントになりました。

決勝戦の相手は知将土田監督率いる熊本県の玉名町小学校で、左腕エースフローターから放たれるロングシュートに威力があり、連携の取れたアタックディフェンスで思うような攻撃をさせない戦略に苦戦しました。もともと相手をロースコアーに抑える自信は上庄にもあったのですが、これだけ得点が取れないことは想定外でした。味わったことがない決勝戦独特の雰囲気と緊張感が、子どもたちの何気ない動きをも封じ込めていたのです。

両エースがシュートを打ち合い、キーパーを主軸としたディフェンスの凌ぎ合いで、延長戦に突入。互いに死力を

とが一番の思い出です。５年前の全国制覇と違って、今回は「全国制覇をしよう」という目標をたててての優勝だったことや昨年まで、決勝戦で３回とも敗れ、準優勝で終わっていたこともあり、最高の京都の夏となりました。

玉名町小の特徴は素直に頑張る子どもたち、それを支えてくれる保護者の強力なバックアップ、忙しい時もいつも練習に駆けつけてくれる強力なスタッフ陣にあります。特に３年間子どもたちを励まし続けた井上香織コーチ、子どもたちのコンディションを考えてくれた河野有紀コーチ、作戦面で私を支えてくれた平嶋秀盛コーチ、たくさんの雑務を引き受けてくれた田中潔コーチには感謝の気持ちでいっぱいです。17 人の子どもたち、保護者、スタッフが「全国制覇」の夢を叶えるために、心をつなげることができたのが一番の誇りであり、玉名町小の財産です。これからもみんなで心をつなぎ、新しい夢の実現の第一歩を踏み出していこうと思います。

尽くして戦った延長戦でも決着がつかず、代表者３名による 7mTC で優勝を決定することになったのです。

代表選手にとっては大きなプレッシャーが掛かる厳しい決定方法でしたが、「結果を恐れず、仲間を信じよう！」と言葉を掛け、みんなで祈るように見守りました。

ゴールキーパーの冷静な判断による好手と、プレーヤーの確実な得点により、富山県勢女子としては悲願であり、子どもたちにとっては夢の全国制覇を成し遂げることができました。

この結果に至るまでには、氷見市をはじめ富山県内に小学生チームを根付かせ、ご指導いただいた先輩方の献身的な努力があったこと、また、多くの皆様から激励、ご声援いただきましたことを決して忘れることはできません。これからも初心に立ち返って、子どもの心、子どもたちの目線で語り合える指導者であり続けたいと考えています。

終わりに、京田辺市をはじめ、連日の猛暑の中、大会運営等にご尽力いただきましたハンドボール関係者の皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

平成18年度　第14回全日本ハンドボールマスターズ大会

平成 18 年度 第 14 回全日本マスターズハンドボール豊橋大会を振り返って

全日本マスターズ豊橋大会事務局
豊橋ハンドボール協会理事長　　木和田　浩史

第 14 回全日本マスターズハンドボール豊橋大会が平成 18 年 8 月 11 日～ 13 日にかけ、豊橋市総合体育館と愛知県立豊橋西高等学校を会場に、全国から 52 チームの参加を得て盛大に開催されました。今回の特徴は開催時期がお盆と重なっていることと、海外のチームの参加があったことでした。

豊橋市の市制 100 周年事業とのかかわりで、この時期しか体育館の予定が取れず、例年実施されている 7 月後半の時期の参加数と今回ではかなりの差があるのでは、と心配されましたが、昨年よりも参加チームが増加しました。ただ、お盆の交通渋滞で開会式等に間に合わないチームもあり心配されました。

もうひとつは、台湾の女子チームが参加してくれたことです。海外のチーム参加は今回が初めてで、HC 名古屋 ATF・中部ドリームスの方たちの応援を得て、素晴らしいゲームができました。

また、12 日の懇親会にも約 500 人が集い、親睦や交流を深め楽しいひと時を過ごしました。

試合は交流型の和気藹々とした雰囲気のものから、順位決定型の往年の JAPAN のパワフルなゲームまでマスターズならではの味のあるハンドボールを見ることができました。

運営面では様々な方々の応援を得て無事に終えることができました。特に、医療法人整友会の理学療法士の方たちのサポートが得られたことが、選手の怪我の予後・予防におおいに役立ったと思います。

今後マスターズを続けていく上で以下のことが大切であると思います。

(1) ハンドボールコート 5 面の確保

交流型（31 チーム）15 分― 5 分― 15 分、順位決定型（21 チーム）20 分― 5 分― 20 分の 1 日半の試合のスケジュールが 5 面無いとできない。

これ以上チーム数が増加すると満足な試合数が確保できない。

(2) 選手の怪我の予防・テーピング等のスタッフを揃える

(3) 選手登録の締切り時期…本年度印刷所に出したのが 5 日前

最後に、この大会のためにご尽力いただいた、日本ハンドボール協会・全日本教職員ハンドボール連盟、豊橋市教育委員会に感謝するとともに、来年度開催予定の富山県氷見市の成功を祈念しまとめの言葉といたします。

最終結果（順位決定型）

［男子］
- 1 位　WAKUNAGA
- 2 位　NISSHINN
- 3 位　下松クラブ アダルツ

［女子］
- 1 位　富山エンジェルズ
- 2 位　風見鶏ファミリー
- 3 位　にこにこ GUTS

平成18年度 第14回全日本マスターズハンドボール豊橋大会を終えて

大会競技委員長　小山 哲央

大会開催前日まで、複数の台風が西日本に接近する気象状況に、遠来のチームの交通機関への影響が危惧される中、第14回全日本マスターズは幸いにも参加全チーム欠けることなく開催することが出来ました。8月11日（金）7人制に先立ち、今年で第3回となる“11人制マスターズ”が愛知県立豊橋西高校のサッカー場で行なわれました。(財)日本ハンドボール協会を代表して竹野奉昭氏、全日本教職員連盟会長遠藤健次氏の両氏から開会のご挨拶を頂いた後、遠藤健次氏のスローオフの笛のもと、11人制時代の日本を代表する名選手浅野克彦氏の始球式を兼ねたスローオフで試合は開始されました。当初は4チームを予定しておりましたが、お盆の入りと交通事故渋滞で遅刻を余儀無くされた参加者もおり、今年も昨年同様3チームにグループ分けされました。しかし、参加人数は大幅に増加し、総数60人が集合しました。11人制の経験者を中心に未経験の男性、女性も広いフィールドを縦横無尽に走り回り、熱戦を繰り広げました。大会の最後に例年通り葵クラブの代表川野晴雄氏の音頭でエールの交換を交わし、大会の幕を閉じて頂きました。

次に7人制大会については、過去13回の大会では見られなかった3つの特徴についてまとめてみました。

①海外から初参加が実現し、国際化への第一歩を記した大会となる。

台湾から初参加の“女人四十一枝花手球隊”は全員が40代で、しかもかつて台湾を代表するプレーヤーで構成されたチームです。このチーム名はマスターズに参加するために命名されたと聞いております。女人四十一枝花という言葉は台湾に古くからある諺で、40代の女性は社会的に最も充実し、しかも女性として最も美しい年頃であるという意味だそうです。チームとしては以前から存在していましたが、最近は試合相手に恵まれず欲求不満状態にあったそうで、この大会参加に声を掛けましたところ、快く参加を表明して下さいました。今後も参加を希望しており大変満足して帰国されました。

②11人制大会を含め70歳台の参加者の急増した大会となる。

(財)日本協会からは11人制と7人制で日本を代表するプレーヤーで、我々の憧れの的であった竹野奉昭さん、全日本教職員連盟では名誉会長の佐野和夫さん、会長の遠藤健次氏、そして紅一点で連盟女子専門委員長の審愛玲さん、愛知県協会では会長として県協会をリードする太田耕治さん、11人制時代に一世を風靡した協会参与の浅野克彦さん、豊橋市を始め東三河のハンドボールの普及に貢献した同じく顧問の間瀬和義さん、大阪協会の重鎮で竹野さんとは大学の同級生の東嘉伸さん、富山県協会会長で氷見ハンドボールの育ての親の金原至さん、京都の協会で現在も要職で活躍の前田勝さん、そして最後に5年連続出場で気を吐くLBCアルバトロスの河内鋭雄、寺嶋潔、君島英彦、山岸信久の四氏、以上14名の方々が元気に参加され、画期的なマスターズらしい大会にして下さいました。来年は更に多くの70歳台・80歳台の参加をお待ちしております。

③参加チームの参加形態の変化した大会となる。

7人制52チーム、11人制3チームの合計55チームが出場して下さいました。大会がお盆と重なりチームの参加数を心配しておりましたが、蓋を開けたところこのような大きな数字になりました。しかし岩手のギャロップレディースやフェザント、九州の甲斐クラブや泉丘会の常連チームが不参加したのをはじめ、初出場を希望していた5～6チームが、やはりお盆の影響を受け出場を取り止めました。一方、これまで1チームで参加していたチームが、2チームとなって参加したのも今年の大きな特徴のひとつです。昨年に引き続き2チーム参加の東京クラブ連盟AとB、神楽坂フェニックスと神楽坂シニア、IDBスポーツクラブAとB、岐阜MHCのAとB、海自桜錨会と桜錨会G、更にNISSHINと鉄球会。この6組のうち東京クラブ連盟は2チームとも交流型に参加しましたが、他の5組は順位決定型と交流型に分かれての参加でした。今後は他のチームも選手層を厚くし、2チームに分かれて参加してくださればマスターズもますます盛り上がると思います。

来年の大会は富山県氷見市におきまして7月27日（金）～29日(日)の期間で開催されることが決定しました。コート数も今年と同様5面を準備して下さるそうです。今年以上に多くのチームが出場して下さることを期待します。

最後にこの大会のコンセプトの1つであります「自主独立大会を目指せ!!」について一言述べさせて頂きます。私が所属しておりますHC名古屋の2チーム（ATFと中部ドリームズ）は、これまで開催してきました全ての大会に多かれ少なかれお手伝いをして参りました。しかも全て手弁当で協力してきました。参加料や懇親会費は勿論、愛知県内で行なわれました9つの大会を含めて宿泊、交通費も全て自腹でやってきました。これは最初に掲げました「マスターズは自主独立大会たれ!!」を理解し、参加者の手作り大会を一丸となって実践してきたからです。このような努力の結果として多くの参加チームの理解を得ることができたのでしょう。昨年と今年の2大会では「審判員は負担の少ない“3審制”で参加チームが交代で務める」という独自の方式を採用し、ほぼ完全に実施することが出来ました。これはコンセプト実現に向けて大きな、大きな一歩となりました。

来年の大会に向けての課題は“大会役員を含めて全ての参加者・チームが自己負担で大会に臨む”という当たり前のことから出発し、手作りの自主独立大会を目指すこととして第14回全日本マスターズハンドボール豊橋大会の報告とさせて頂きます。

PHOTO GALLERY

台湾から初参加

順位決定型の熱戦

親と子のふれあいタイム

11人制大会の熱戦？から

～強化は「点」から「線」へ

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

ことのほか暑かった今年の夏。各カテゴリーの大会が開かれた。結果はというと、アジア男子ユース選手権が４チーム中４位、世界学生選手権は男子が５位、女子が４位、アジア女子選手権は４チーム中３位、世界女子ユース選手権は７位、そしてアジア男子ジュニア選手権は５位と、参加４カ国すべてに世界選手権のキップが与えられるアジア女子選手権、世界女子ユース選手権を除けば、メダルの獲得はなく、世界へのキップはつかめなかった。

聞くところによると、中東勢のユース世代、ジュニア世代への強化対策はすごいという。たとえばカタールはともにアジア選手権に備えて１カ月間もドイツで直前合宿を張ったという。また、イラン、クウェート、サウジアラビアなどはヨーロッパから監督やコーチら指導者を招いている。練習方法、戦術など完全に強化の目はヨーロッパに向けられているようだ。

ジャッジの問題がよく取りざたされるが、技術と技術、力と力の対決で差がつけられては、そのダメージはきわめて大きいと言わざるを得ない。

カタールのように長期に合宿や遠征計画を組むことは、残念ながら日本では不可能だ。日本がこなせることは何があるか。もっと真剣に考える必要があるだろう。

まずは各カテゴリーが共通認識を持って将来につなぐことが大切だろう。中学、高校、大学、実業団といった個別の「点」でなく、それらを一本の「線」として結ぶことだ。それぞれのカテゴリー指導者が議論を重ね、一貫指導体制を確立することから始めることではないだろうか。

また、せっかく男女の日本代表監督をヨーロッパから招いたのだから、トップの指導だけでなく、全国に指導行脚させたり、アジア男子ジュニア選手権を視察させ、金の卵発掘に力を注がせたり、わが国のハンドボール界の実情を把握させることも必要ではなかろうか。

現状から考えると、アジア制覇からまずは手をつけることである。マカオや香港、台湾など「後進国・地域」もレベルアップに余念がない。当然ながら０８年に北京オリンピックを開く中国は国を挙げてさらに強化に努める。それだけになおさら各カテゴリーが足並みを揃えないと置いていかれる懸念がある。

ヤングの強化なくしては、日本のきびしい現実を迎えることになりそうな気がしてならない。

NTS2006報告

ＮＴＳコーディネーター　田中　茂

暑い夏、全国９ブロックによるＮＴＳブロックトレーニングも開催地関係者、ＮＴＳスタッフ、ナショナルスタッフチーム、ＮＴＳ運営関係者のご協力により成功裏に無事終了することができました。ご協力を頂きました皆様、誠にありがとうございました。また、参加した選手の皆様、お疲れ様でした。

今後、各ブロックから選考されました選手は推薦書によります書類選考会を10月に行い、今年度のセンタートレーニング推薦者が決定いたします。

また、今年度のセンタートレーニングは１月５日(金)～８日(月)までの期間に中部大学で行なう事も決定しております。

今回は、ＮＴＳブロックトレーニングで行ないました、トレーニング内容のＤＦ部門に関してご報告いたします。

NTS2006ブロック強化指導内容（ＤＦ部門）

◇ＤＦトレーニングテーマ

①シュートブロック
②オーバーシフト（牽制）
③ダブルチーム

◇背景

・オフェンシブなディフェンスを目指す事により、シュートブロックの意識が薄れている。
・また、オフェンシブなディフェンスのデメリットを補完するために、ディフェンシブなディフェンスを採用した場合、必要となる技術である。

■ドリルⅠ

【テーマ】シュートブロック
→腕をあげる習慣をみにつけさせる。

【方法】
２人１組によるシュートブロック
〈トレーニングの段階〉
1．リリースポイントの変化にディフェンスは手を合わせる。
2．ＯＦはステップの変化を入れる。
3．ＯＦはジャンプシュートからダブルモーション。
4．ＯＦは前後の動きを入れ、近い間合いはアタック、遠い間合いはシュートブロックするように、ディフェンスが判断する。

【ポイント・イメージの伝達】
・ディフェンスは、横にならずに板を持つイメージで行なう。
・腕の軌道を予測すること。
・片手でも反応する。

【補足注意事項】
・足の向きはフラットにならず、片足を少し前に出す。

■ドリルⅡ

【テーマ】オーバーシフト（牽制）
→牽制をしてボールをＯＦのいいタイミングで入れさせない、あるいは、勢いをつけさせず、いい状態でボールを受け取らせない。

【方法】
パサーありの１対１（トップ）

【ポイント・イメージ伝達】
・プレーの優先順位は、
①ボールを入れさせない。
②オフェンスを下がらせる、止まらせる。
・オフェンスが下がったり、攻めて来なければ深追いをしない。

【補足注意事項】
・オープンスタンスかクローズドスタンスか。
→基本はオープンスタンス。ただし、パサーの状態でクローズドスタンス変化。また、ＤＦの裏にダイレクトにカットインさせたくないので、その場合もクローズドスタンスでタイトに守ることはある。
・スタートのポジションは、ボールとマークが両方見れる位置。
・オフェンスがゾーンを変え、ボールをもらった場合、追い込んだとなりのディフェンスに受け渡す。

■ドリルⅢ

【テーマ】ダブルチーム

【方法】
１対２の状況を設定して行なう。

【ポイント・イメージの伝達】
・囲むようにして、パスコースを限定する。

【補足注意事項】
・リスクの大きさが感じられるトラップ系のディフェンスなので、全体の中でのチャレンジポイントを明確にして伝えることが必要。

2006年度　ＮＴＳブロックトレーニング　ディフェンス部門のトレーニングです。

来月号では、オフェンストレーニングについてご案内いたします。

「ハンドボール競技のスポーツ医・科学研究」(2001 ～ 2006)刊行のお知らせ

医事専門委員会　西山 逸成

「ハンドボール競技のスポーツ医・科学研究」の第4巻の刊行となりました。1960年以降の研究報告集は次のとおりです。

第1巻；全日本男・女選手の体力処方とスポーツ障害(1960 ～ 1994)

第2巻；ハンドボール選手の体力・メディカルサポート・コンディショニング

第3巻；体力・コンディショニング・アンチドーピング(1995 ～ 2000)

第4巻；栄養とコンディショニング・メディカルサポート・アンチドーピング・国際大会・国際会議他 (2001 ～ 2006)

第4巻の編集の狙いとしては、2008年北京オリンピック大会出場への宿願達成の参考として提供しようとしたものです。

日本選手の競技力向上をスポーツ医・科学的な視点として高水準の基礎体力とスポーツ障害の予防・排除および栄養管理をトータルコンディショニングの面から考察してみました。

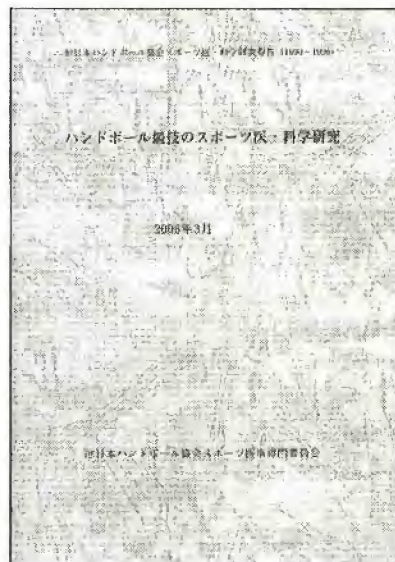
1. スポーツ医・科学研究としましては、全日本男女、U-19の栄養調査を中心とした水分摂取量、血液、尿、乳酸の推移等によるトータルコンディショニングの現況と改善方法を検討しました。

1）全日本男子の現況調査：ハンドボール競技に必要な栄養摂取基準として男子ナショナル選手の合宿時の食事調査を平成16・17年度に実態調査を実施しました。摂取エネルギー量は、平均3,662Kcal（2回目3,712Kcal）であり、栄養素別エネルギーバランス（たんぱく質P・脂質F・糖質C）は平均15：30：55％であり、たんぱく質・炭水化物がやや少ない傾向であり、疲労回復の遅れやコンディショニングづくりの阻害となろう。

2）U-19男子：3日間3,900Kcal水準であったが、たんぱく質（卵・豆・乳）とビタミン（果物）にかなり不足がみられた。

3）水分の摂取状況：全日本男子・Jr男子の水分摂取状況をトレーニング時、試合中を調査した結果では、水分摂取必要量としての試合前（250 ～ 500ml）、試合中（500 ～ 1,000ml）を満たしている選手は1/3程度であり、パフォーマンスの低下、傷害の防止、熱中症の予防面から不足といえましょう。

また水も水道水ではなくスポーツドリンクを運動強度に応じて希釈したり、自己製として水1,000ml+砂糖40 ～ 60g、食塩1 ～ 2g、レモン・オレンジで攪拌すれば、糖質・電解質を含んだ飲料となるでしょう。また水分摂取量の適量としては、運動発汗による体重の2％摂取が目安となり、血中水分不足による酸素運搬能力の低下を防ごう。

4）血液検査傾向：全日本男子選手の血液検査結果から総コレステロール低値傾向、尿酸値高値傾向、中性脂肪高値傾向がみられるので、たんぱく質バランス面で動物性の肉に偏りがちな傾向から脱し、週1～2回程度は魚の主菜、植物性たんぱく質、カルシウム強化、そして豆乳も効果的に摂取すべきであろう。

スコアールーム①
高松宮記念杯第47回全日本実業団ハンドボール選手権大会
開催期日：2006年7月26日(水)～30日(日)
会　　場：佐賀県・佐賀市：県総合体育館ほか

【男子】

▼1回戦

ホンダ　27（17－11、10－13）24　北陸電力
トヨタ車体　36（20－10、16－10）20　ホンダ熊本

▼2回戦

大同特殊鋼　46（23－8、23－7）15　豊田合成
トヨタ紡織九州　33（16－11、17－15）26　ホンダ
湧永製薬　31（14－15、17－13）28　トヨタ車体
大崎電気　51（26－9、25－12）21　八光自動車工業

▼順位決定戦（7位～10位）

ホンダ熊本　28（14－13、14－9）22　豊田合成
北陸電力　31（17－13、14－9）22　八光自動車工業

▼9位決定戦

豊田合成　31（13－16、18－11）27　八光自動車工業

▼7位決定戦

北陸電力　35（19－10、16－10）20　ホンダ熊本

▼5位決定戦

ホンダ　31（13－18、18－11）29　トヨタ車体

▼決勝リーグ戦

大同特殊鋼　31（14－14、17－10）24　トヨタ紡織九州
大崎電気　35（19－10、16－16）26　湧永製薬
大同特殊鋼　31（16－16、15－10）26　湧永製薬
大崎電気　26（15－9、11－16）25　トヨタ紡織九州
湧永製薬　29（15－9、14－11）20　トヨタ紡織九州
大同特殊鋼　29（16－11、13－16）27　大崎電気

▼最終順位

優　勝　大同特殊鋼
準優勝　大崎電気
3　位　湧永製薬
4位：トヨタ紡織九州／5位：ホンダ／6位：トヨタ車体／7位：北陸電力／8位：ホンダ熊本／9位：豊田合成／10位：八光自動車工業

【女子】

▼リーグ戦

北國銀行　22（11－8、11－8）16　香川銀行TH
オムロン　33（15－12、18－15）27　ソニーセミコンダクタ九州
ソニーセミコンダクタ九州　30（16－9、14－13）22　香川銀行TH
北國銀行　32（13－18、19－12）30　広島メイプルレッズ
広島メイプルレッズ　34（17－13、17－12）25　香川銀行TH
オムロン　34（15－11、19－7）18　北國銀行
オムロン　31（15－10、16－11）21　香川銀行TH
ソニーセミコンダクタ九州　30（17－10、13－17）27　広島メイプルレッズ
ソニーセミコンダクタ九州　32（14－12、18－15）27　北國銀行
オムロン　32（18－11、14－10）21　広島メイプルレッズ

▼最終順位

優　勝　オムロン
準優勝　ソニーセミコンダクタ九州
3　位　北國銀行
4位：広島メイプルレッズ／5位：香川銀行ＴＨ

スコアールーム②
第19回全国小学生ハンドボール大会
開催期日：2006年7月28日(木)～30日(日)
会　　場：京都府・京田辺市：田辺市中央体育館ほか

【男子】

▼予選Ａブロック

玉名町小学校（熊本）　22－8　小金井クラブ（東京）
玉名町小学校　18－12　高山クラブ（岐阜）
小金井クラブ　17－12　高山クラブ

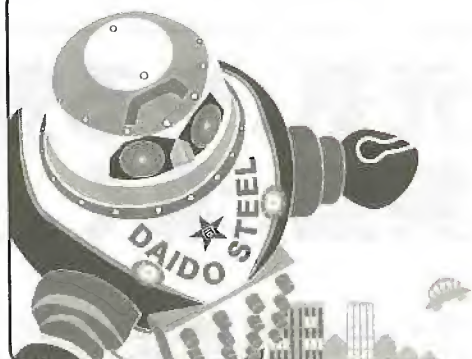
▼予選Ｂブロック

富岡イーグルス（群馬）　14－11　和田山(大蔵)クラブ(兵庫)
東海クラブ（愛知）　27－3　愛媛ジュニアーズ（愛媛）
東海クラブ　17－10　富岡イーグルス
和田山（大蔵）クラブ　16－6　愛媛ジュニアーズ

▼予選Ｃブロック

本田ブルーロケッツ(福井)　28－10　和歌山ハンド教室（和歌山）
瀬戸オールスターズ(岡山)　21－11　塩山スポーツ少年団（山梨）
本田ブルーロケッツ　30－10　瀬戸オールスターズ
和歌山ハンド教室　20－6　塩山スポーツ少年団

▼予選Ｄブロック

LITTLE GUTS（山口）　27－26　三松小スポ少（宮崎）
桃園小学校クラブ（京都）　19－9　柏崎ジュニア（新潟）
LITTLE GUTS　15－14　桃園小学校クラブ
三松小スポ少　15－13　柏崎ジュニア

▼予選Ｅブロック

下郡スポーツ少年団(大分)	28－8	本宮スポーツ少年団（福島）
下郡スポーツ少年団	25－4	香川町スポーツ少年団(香川)
本宮スポーツ少年団	17－16	香川町スポーツ少年団

▼予選Ｆブロック

松井ケ丘小学校（開催地）	16－12	堀川スポーツ少年団（富山）
高盛クラブ（北海道）	32－8	安芸高田クラブ（広島）
松井ケ丘小学校	26－14	高盛クラブ
堀川スポーツ少年団	18－8	安芸高田クラブ

▼予選Ｇブロック

守谷クラブ（茨城）	20－7	真弓クラブ（奈良）
日吉小クラブ（長崎）	13－5	鈴鹿スクール（三重）
日吉小クラブ	12－11	守谷クラブ
鈴鹿スクール	15－4	真弓クラブ

▼予選Ｈブロック

当山小学校（沖縄）	16－11	岸和田フレンズ（大阪）
当山小学校	20－14	三郷クラブ（埼玉）
岸和田フレンズ	9－9	三郷クラブ

▼決勝トーナメント1回戦

玉名町小学校	14－5	東海スクール
木田ブルーロケッツ	19－8	LITTLE GUTS
下郡スポーツ少年団	15－8	松井ケ丘小学校クラブ
当山小学校	15－11	日吉小クラブ

▼準決勝

玉名町小学校	12－6	木田ブルーロケッツ
下郡スポーツ少年団	24－17	当山小学校

▼3位決定戦

木田ブルーロケッツ	21－17	当山小学校

▼決勝

玉名町小学校　16（7－3、9－5）8　下郡スポーツ少年団

【女子】

▼予選ａブロック

薪クラブ（京都）	16－5	総社ジュニア（岡山）
薪クラブ	12－9	水海道クラブ（茨城）
総社ジュニア	11－9	水海道クラブ

▼予選ｂブロック

富岡ラビッツ（群馬）	23－9	香川町オリーブ（香川）
安居ブルーサンダー(福井)	12－2	小林スポーツ少年団（宮崎）
富岡ラビッツ	8－7	安居ブルーサンダー
小林スポーツ少年団	12－10	香川町オリーブ

▼予選ｃブロック

上庄クラブ（富山）	24－5	山梨市スポーツ少年団(山梨)
上庄クラブ	30－3	大浜キッズ（大阪）
山梨市スポーツ少年団	9－5	大浜キッズ

▼予選ｄブロック

浦城小学校クラブ（沖縄）	17－6	三郷クラブ（埼玉）
浦城小学校クラブ	20－8	笹川ハンドボール少年団(三重)
三郷クラブ	13－5	笹川ハンドボール少年団

▼予選ｅブロック

LITTLE GUTS（山口）	23－8	東久留米クラブ（東京）
LITTLE GUTS	21－3	真弓クラブ（奈良）
東久留米クラブ	11－9	真弓クラブ

▼予選ｆブロック

松井ケ丘小学校クラブ(開催地)	13－9	東海スクール（愛知）
松井ケ丘小学校クラブ	15－6	かやげクラブ（北海道）
東海スクール	10－10	かやげクラブ

▼予選ｇブロック

下郡スポーツ少年団(大分)	29－4	川西コジマーズ（兵庫）
下郡スポーツ少年団	26－4	安芸高田クラブ（広島）
川西コジマーズ	11－6	安芸高田クラブ

▼予選ｈブロック

玉名町小学校（熊本）	17－6	羽島クラブ（岐阜）
玉名町小学校	15－3	本宮スポーツ少年団（福島）
羽島クラブ	18－6	本宮スポーツ少年団

▼決勝トーナメント1回戦

薪クラブ	13－10	富岡ラビッツ
上庄クラブ	17－11	浦城小学校クラブ
LITTLE GUTS	13－9	松井ケ丘小学校クラブ
玉名町小学校	10－8	下郡スポーツ少年団

▼準決勝

上庄クラブ	27－6	薪クラブ
玉名町小学校	9－6	LITTLE GUTS

▼3位決定戦

LITTLE GUTS	15－10	薪クラブ

▼決勝

上庄クラブ　12（4－4、3－3）10　玉名町小学校
（2－2延長1－1）
（2　7mTC　0）

スコアールーム ③ 第14回全日本ハンドボールマスターズ大会

開催期日：2006年8月11日(金)～13日(日)
会　　場：愛知県・豊橋市総合体育館ほか

【男子】

《交流型》

▼あブロック

HC名古屋A.T.F　14－9　桜錨会
LBCアルバトロス　12－9　桜錨会
三景　22－11　神楽坂シニア
三景　13－10　HC名古屋A.T.F
東京クラブ連盟A　11－8　LBCアルバトロス
HC名古屋A.T.F　17－14　東京クラブ連盟A
三景　15－12　LBCアルバトロス
桜錨会　16－6　神楽坂シニア
東京クラブ連盟A　19－8　神楽坂シニア

▼いブロック

46G会　17－12　間瀬組2006
46G会　15－9　葵クラブ
葵クラブ　20－5　櫻ドール
間瀬組2006　13－10　岐阜MHC　A
兵庫県選抜　23－7　岐阜MHC　A
兵庫県選抜　25－6　櫻ドール
葵クラブ　11－10　岐阜MHC　A
櫻ドール　11－11　間瀬組2006
兵庫県選抜　18－6　46G会

▼うブロック

大会運営チーム　15－13　横浜平沼マスターズ
大会運営チーム　14－10　みまさかももっちーズ
知多クラブ　12－5　みまさかももっちーズ
知多クラブ　17－7　IDBスポーツクラブ
東京クラブ連盟B　18－14　IDBスポーツクラブ
東京クラブ連盟B　20－7　横浜平沼マスターズ
IDBスポーツクラブ　13－10　大会運営チーム
知多クラブ　14－9　横浜平沼マスターズ
東京クラブ連盟B　18－7　みまさかももっちーズ

▼えブロック

teamNEXT　13－9　鉄球会
蒲郡クラブ　16－12　オールド愛媛
蒲郡クラブ　16－12　teamNEXT
愛豊Z　9－7　オールド愛媛
小金クラブ　13－10　愛豊Z
小金クラブ　9－8　鉄球会
teamNEXT　16－4　愛豊Z
蒲郡クラブ　13－10　小金クラブ
鉄球会　15－12　オールド愛媛

《順位決定型》

▼Aブロック

WAKUNAGA　22－12　生駒オークス
WAKUNAGA　20－19　埼玉フェニックス
埼玉フェニックス　19－10　生駒オークス

▼Bブロック

神楽坂フェニックス　28－12　紫風会
神楽坂フェニックス　24－12　IDBスポーツクラブ
IDBスポーツクラブ　18－17　紫風会

▼Cブロック

オールドフェイス　22－19　海自桜錨会
オールドフェイス　20－16　下松クラブアダルツ
下松クラブアダルツ　18－16　海自桜錨会

▼Dブロック

アズーロ　27－13　岐阜MHC　B
アズーロ　19－14　GG'S
GG'S　27－15　岐阜MHC　B

▼Eブロック

NISSHINN　22－15　待兼シニア
NISSHINN　20－14　徳山クラブ
待兼シニア　17－14　徳山クラブ

▼決勝トーナメント1回戦

埼玉フェニックス　27－15　GG'S
下松クラブアダルツ　22－16　IDBスポーツクラブ

▼2回戦

NISSHINN　21－19　神楽坂フェニックス
埼玉フェニックス　22－17　オールドフェイス
下松クラブアダルツ　14－9　アズーロ
WAKUNAGA　22－13　待兼シニア

▼準決勝

NISSHINN　24－20　埼玉フェニックス
WAKUNAGA　19－17　下松クラブアダルツ

▼3位決定戦

下松クラブアダルツ　12－0　埼玉フェニックス

▼決勝

WAKUNAGA　16－12　NISSHINN

▼最終順位

1位　WAKUNAGA
2位　NISSHINN
3位　下松クラブアダルツ

【女子】

《交流型》

▼おブロック

BABAR'S　13－6　スマイルGifu
HC名古屋中部ドリームズ　13－12　瀬戸内レディース
スマイルGifu　18－7　モッピークラブ
瀬戸内レディース　14－8　BABAR'S
女人四十一枝花　11－8　HC名古屋中部ドリームズ
武蔵野クラブ　10－4　モッピークラブ
女人四十一枝花　13－8　武蔵野クラブ
BABAR'S　10－8　HC名古屋中部ドリームズ
スマイルGifu　11－6　武蔵野クラブ
瀬戸内レディース　16－5　武蔵野クラブ
女人四十一枝花　12－6　モッピークラブ

《順位決定型》

▼Fブロック

風見鶏ファミリー　15－14　スズッキーズ
風見鶏ファミリー　20－13　マミーズ
マミーズ　18－17　スズッキーズ

▼Gブロック

富山エンジェルス　23－15　にこにこGUTS
富山エンジェルス　23－15　フェニーチェ
にこにこGUTS　21－17　フェニーチェ

▼5・6位決定戦

スズッキーズ　24－13　フェニーチェ

▼3・4位決定戦

にこにこGUTS　24－13　マミーズ

▼決勝

富山エンジェルズ　13－12　風見鶏ファミリー

▼最終順位

1位　富山エンジェルズ
2位　風見鶏ファミリー
3位　にこにこGUTS

平成 18 年度　4月 常務理事会

日　時：平成 18 年4月8日（土）
11:00 ～ 15:00
場　所：東京体育館第３会議室
出席者（敬称略、名簿順）：
理事：山下　泉、市原則之、
大西武三、村松　誠、蒲生晴明、
江成元伸、木野　実、川上憲太、
平岡秀雄、兼子　真、島田房二
監事：竹野奉昭、殿水幸雄
参事：堀美和子、大橋則一
（事務局）茂木、平賀

以上、出席理事 11 名、委任状出席３名、出席監事２名、出席参事２名、事務局２名

審議事項

1．男子代表監督について

蒲生強化本部長より、候補者の説明があり、イヴィツァ・リマニッチ氏を第１候補として交渉を進めることが説明された。審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

2．蒲生プロジェクト構想について

蒲生強化本部長より、現在の予算の中で、強化事業として強化選手を利用したグッズの開発、DVD の作成などの立案・実行ができるように特化した部門を設定したいとした。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

3．平成 18 年度国際大会選手団役員について

大会選手団の団長など派遣役員について大西専務理事一任で決定したいと提案された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

4．平成 18 年度全国大会セレモニー担当について

村松常務理事より、平成 18 年の大会セレモニー担当について調整した結果が報告された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

5．平成 17 年度日本協会表彰候補者推薦について

村松常務より平成 17 年度の日本協会表彰候補者について、各都道府県協会、団体および日本協会推薦者について一覧表が示された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

6．役員定年について

村松常務より現在ある役員定年規程の不整合性を解消する案が提出された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

7．名誉役員について

皇族の名誉総裁就任について提案があった。

その後、諸事情によりできない旨の連絡があり、提案は取り下げることとした。

報告事項

1．ヒロシマ国際兼アジア男子ジュニア選手権について

2．強化について

1）JOC 強化指定選手、日本協会強化指定選手について
2）平成 18 年度ナショナルスタッフについて
3）その他

3．平成 18 年度文科省スポーツコーチサミットについて

4．プレスキッド、協会マークについて

5．EAHF 会議、国際大会スケジュールについて

6．ヤングレフェリー育成プロジェクトについて

7．大崎企業スポーツ事業研究助成財団 H18 助成事業決定について

8．小学生の男女混合チーム編成について

9．MIP スポーツ・プロジェクト協力参加について

10．東アジアクラブ選手権について

11．第 30 回日本リーグ、プレーオフ結果について

12．大会結果（高校選抜、春中）について

13．がんばれ 10 万人会について

14．事務局職務分担について（日体協、JOC 組織について）

平成 18 年度　5月 常務理事会

日　時：平成 18 年5月 13 日（土）
11:00 ～ 15:00
場　所：東京体育館第３会議室
出席者（敬称略、名簿順）：
理事：山下　泉、市原則之、
大西武三、村松　誠、角　紘昭、
蒲生晴明、江成元伸、木野　実、
川上憲太、兼子　真、島田房二、
西窪勝広
監事：竹野奉昭　参事：大橋則一
（事務局）茂木、平賀

以上、出席理事 12 名、委任状出席２名、出席監事１名、出席参事１名、事務局２名

審議事項

1．平成 17 年度事業報告（案）について

大西専務より概要が述べられ、事業毎の記述方法の統一性を取るように指示された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

2．平成 17 年度決算書（案）について

村松常務より平成 17 年度の決算について説明があった。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

3．平成 18 年度第一次補正予算（案）につ

いて

村松常務より平成18年度の一時補正予算案について説明があった。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

4．役員の定年に関する規程の改訂について

村松常務より対比様式にした規程が提出された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

5．平成18年度国際大会派遣役員について

専務理事より国際大会派遣役員について説明があった。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

6．強化について

1）蒲生プロジェクト、予算案について

蒲生強化本部長より蒲生プロジェクト予算案について説明があった。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

2）ジャパンカップについて

蒲生プロジェクトの一つであるジャパンカップついて概要説明があった。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

3）契約選手、非契約選手登録に関して

契約選手、非契約選手の定義が示された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

7．2007豊田市開催北京オリンピック男子アジア予選について

江成競技本部長より来年開催の北京オリンピック男子アジア予選について、体制、暫定予算案が提出された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

8．第31回オリンピック（2016）国内立候補都市選定委員推薦について

大西専務より渡邉会長を選定委員とすることが提案された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

9．その他

1）審判規程改正について

島田審判部長より審判規程の改定について提案された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

報告事項

1．JOCより選手強化事業の実施について（助成金など）
2．税務調査報告について
3．平成18年度日体協公認スポーツ指導者表彰候補者推薦について
4．評議員交代について

役員改選のあった団体より評議員の変更がでたので、6月の理事会にて審議することにした。

5．強化について（ナショナルチーム他）
6．国際報告（北京オリンピック参加資格基準他）について
7．財政の確保―大会マーケティングについて―

木野常務理事より、日本協会主催大会のいくつかについてマーケティング活動を行うことで検討したいことが示された。

8．協会物品販売について
9．平成18年度日本リーグ行事日程及び日本リーグ活性化プラン
10．がんばれハンドボール10万人会について（平成17年度還元金）

その他資料

1．インターネット委員会議事録、IHF医事委員会参加報告
2．AHF定款および規則

平成18年度 7月 常務理事会

日　時：平成18年7月8日（土）
11:00～15:00

場　所：東京体育館第三会議室

出席者（敬称略、名簿順）：

理事：山下　泉、市原則之、大西武三、村松　誠、角　紘昭、蒲生晴明、江成元伸、木野　実、川上憲太、平岡秀雄、兼子　真、島田房二、西窪勝広

監事：竹野奉昭　参事：大橋則一

（事務局）茂木、平賀

以上、出席理事13名、委任状出席1名、出席監事1名、出席参事1名、事務局2名

審議事項

1．蒲生プロジェクト事業について

強化に特化した事業を推進することが了承された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

2．評議員会の評議員旅費について

今後、再度検討する事になった。

3．2016年オリンピック国内立候補都市選定機関決定について

8月ヒロシマ国際大会時に臨時常務理事会を開催し、機関決定することにした。

4．ボール、ゴール、ネット検定料について

数年間据え置かれており、業者へは来年度値上げ予定のあることを連絡した。

5．第2回女子アジアユース開催について

日本では開催できないとした。

報告事項

1．強化関連について

女子アジア選手権団長報告書
男子アジアユース選手権団長報告書

2．アンチドーピングについて
3．文科省体育の日スポーツフェスティバルについて
4．平成18年度日本リーグ実施について
5．マーケティングについて
6．グループウェア“ビジネスgoo”の利用について
7．大会予定について
8．がんばれハンドボール10万人会について

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」8月入会・継続会員

【北海道】駒林昭三、藤澤賢治　【宮城】大河原浩気　【千葉】金牧　稔、鈴木秀美　【東京】山中　崇、山中圭子、佐藤佳子　【山梨】栗原富貴子　【長野】後藤政俊　【岐阜】尾崎雄三、中島明美　【愛知】山本淳子、笹野邦雄、熊田祐子、西村香代子　【京都】佐々木裕子　【大阪】望月伸三郎、舟崎智芳、久保幸子、白鳥貴子、中川　強、亀石正人、飯田高宏　【兵庫】柿木國夫、新坂智子、大西三千男　【岡山】副島敬子、小林恭太、小林明友美　【広島】藤川道子、山手文雄、青戸克好、有田　忍、両徳良樹　【愛媛】越智　武、越智紀子　【熊本】上野信行

【10月の行事予定】

【会議】……………………………………………………

10月5日（木）　全国理事長会（兵庫）

10月14日（土）　常務理事会（東京）

【大会】……………………………………………………

第61回国民体育大会　10月6日（金）～10日（火）

兵庫県・朝来市ほか

北京オリンピック出場応援キャンペーン募金のご報告

北京オリンピック出場を目指す代表チームの支援のために、日本協会では各種大会で皆様からの応援の募金をお願いしております。お蔭様で下記の大会で、以下のような募金をいただくことができました。ご協力ありがとうございました。

第26回全国クラブ選手権大会東地区大会（福島県）　11,257円

第19回全国小学生大会（京都府）　1,032円

第33回全国高等専門学校選手権大会（兵庫県）　18,430円

第14回全日本マスターズ大会（愛知県）　113,078円

HAND BALL CONTENTS Oct.

（登録チームの購読料は登録料に含む）

JAPAN、名品の系譜。

機能だけではない、風格のようなものがなければならぬ。
先端のテクノロジーでさらにパワーアップした機能を備えて
新しくなったスカイハンドJAPANシリーズ。
グリップ力に優れた国産ラバー採用のJAPANラバーソールと、
しなやかで通気性のあるエクセーヌを使ったカラーアッパーに
ソール前足部のベンチレーションホール等々。
インドアを制するミドルカットとローカットが揃った。

足入れ感を高めてクラシカルな名品復刻モデル。

スカイハンド® JAPAN-MT
NEW THH514 ¥16,800(本体¥16,000)
- カラー：5093 ネイビーブルー×シルバー
- サイズ：23.0〜29.0cm
- 2月上旬新発売

名品スカイハンドSPのフォルムを受け継いだローカットモデル。

スカイハンド® JAPAN-S
NEW THH515 ¥15,750(本体¥15,000)
- カラー：2300 レッド×パールホワイト
  5093 ネイビーブルー×シルバー
- サイズ：23.0〜29.0cm
- 2月上旬新発売

株式会社アシックス

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四七四号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可

平成十八年九月二十六日印刷 平成十八年十月一日発行

東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表〇三－三四八一－二三六〇
振替 〇〇一二〇－七－一〇二九三

編集兼発行人 大西武三

定価 年間三三〇〇円